



館長だより

山形県産業科学館

令和 7 年 8 月 24 日(日)

発行 館長 加藤 智 一

遺伝子操作でこんなことまで

日刊工業新聞 2025. 8. 22 より

名古屋大学の田中良弥講師らは、遺伝子操作によって、ヒメウスグロショウジョウバエのオスが食べ物を吐き戻してメスにプレゼントするという求愛行動をキイロショウジョウバエのオスにさせるという「種間移植」に、世界で初めて成功しました。たった一つの遺伝子の発現の違いで脳内の神経の繋がりが変わり、行動が変化しました。これは、生物の進化の過程で起きる行動の変化を人為的に再現したもので、将来的には、ヒトを含む高度な社会性や文化を支える神経基盤の解明、さらにそのロジックを応用した ICT の開発にも寄与することが期待でき、幅広い領域に影響を与える研究となりそうです。

やっぱり！？ラーメン食べすぎ注意？

山形新聞 第 50279 号より

山形市が 3 年連続で消費額全国一位となるほど、山形県の県民食とも言えるラーメンですが、山形大学医学部と県立米沢栄養大が実施した調査によると、ラーメンを週に 3 回以上食べる人の死亡リスクが相対的に 1.52 倍高くなったとか。この結果にドキッ!!としたあなた。調査には条件が付きものですので、まずはそれを聞いてください。週 3 回以上食べる、70 才未満の男性、スープを半分以上飲む。という方については要注意、という話です。チョット安心しましたか。もちろん、ラーメンが好きだという人には共通した生活習慣などもあるでしょうから、明確に危険だと断定できないそうですが、BMI が高い



とか、喫煙習慣があるとか、お酒が好きだとか、糖尿病だとか、高血圧だとかという生活習慣や疾病とのかかわりも強いと考えられる訳ですので、結果は結果として謙虚に受け止め、ほどほどに最高の一杯を楽しまれてはいかがでしょうか。

銅線リサイクルは「天ぷら」「カニしゃぶ」

日刊工業新聞より

産業廃棄物の配線から銅をリサイクルする「DO・CHANGE」の岸本明弘社長は、「天ぷら」「カニしゃぶ」と呼ぶ特殊な手法で、アフリカの環境汚染や貧困問題の解決に取り組んでいます。車や家電製品等が廃棄されるときに発生する被覆銅線。中の銅線は再資源化される物も多いのですが、細い物は被覆を取り除くのに手間がかかり、多くは産業廃棄物となっています。アフリカの貧困層は、この廃棄銅線を野焼きして、銅を取り出している地域があり、発生したダイオキシンによる健康被害や大気汚染が問題となっていました。

岸本氏が注目したのは、香川県の企業と香川高専の共同開発による特許技術。被覆銅線を廃油の中に入れて加熱し、一定の条件下におくと、被膜は炭化して黒い粉になり、銅線が残る仕組みです。この作業が「天ぷら」の調理方法に似ており、高温でも炭化しない耐熱性の高い物を熱して柔らかくし、中の銅線を抜き取る様子は「カニしゃぶ」のようです。岸本氏の目標は、世界から銅を取り出すための野焼きをなくすことです。アフリカでのこの事業展開が貧困層の就労支援につながれば、一石二鳥ということでしょうか。

サンタクルスゾウガメの高齢出産

8 月 20 日、フィラデルフィア動物園は絶滅危惧種であるサンタクルスゾウガメの高齢の両親、「マミー」と「アブラソ」から 9 匹の子どもたちが生まれたと発表しました。この「ほぼ 100 歳」のカメのカップルは世界の人気者で、彼らの歴史的な繁殖の成果により、北アメリカで飼育されているこの種の個体数は 44 匹から 60 匹へと一気に増加しました。ン!!計算合わない!!

